

事 業 概 要

厚生省報告例

(1) 試験検査実施件数

昭和58年度

検査内訳			件数	検査内訳			件数	
細菌検査	分離・同定	腸内細菌	1,340	飲料水検査	水道水	細菌学的検査	99	
		レンサ球菌	0			理化学的検査	100	
		ジフテリア菌	-			浄水	細菌学的検査	365
		その他の細菌	451				理化学的検査	385
	血清検査	0	井戸水		細菌学的検査	1,092		
	化学療法剤に対する耐性検査	0			理化学的検査	1,156		
	動物試験	-			その他	細菌学的検査	51	
		理化学的検査	54					
ウイルス・リケッチア検査	分離・同定	ポリオ	-	利用水	細菌学的検査	細菌学的検査	39	
		日本脳炎	-			理化学的検査	57	
		インフルエンザ	58		下水関係検査	細菌学的検査	470	
		その他のウイルス・リケッチア	-			理化学的検査	835	
	血清検査	-	生物学的検査			-		
	動物試験	ポリオ	-		清掃関係検査	し尿	細菌学的検査	-
		日本脳炎	-				理化学的検査	-
インフルエンザ		116	生物学的検査	-				
	その他のウイルス・リケッチア	1,832	その他	-				
結核	培養検査	254	公害関係検査	大気	SO ₂ ・NO・NO ₂ ・Ox・CO	-		
	化学療法剤に対する耐性検査	0			浮遊粒子状物質(粉じんを含む)	616		
性病	梅毒	2,121			降下ばいじん	850		
	りん病	0		その他		437		
	その他	0		河川汚濁	理化学的検査	654		
寄生	742	その他			618			
寄原生虫	原虫類	167		その他	833			
	殺虫剤効力・耐性	-	一環般環境		一般室内環境	46		
食中毒	細菌学的検査	456		放射能	浴場水・プール水	330		
	理化学的検査	0	雨水・陸水		-			
臨床検査	血液	血液型	-	食品	その他	-		
		血液一般検査	54		温泉(鉱泉)泉質検査	-		
		生化学検査	605	家庭用品検査		154		
		先天性代謝異常検査	21,077		野菜	特殊栄養食品	-	
	その他	63,293	品養	その他		-		
	尿	15,718		その他	-			
	便	-						
病理組織学的検査	-							
その他	-							
食品検査	細菌学的検査	1,316						
	理化学的検査	1,247						
	その他	0						

事業概況

市民の保健衛生に係る諸問題へのアプローチとして、多方面にわたる調査研究を積極的に推進し、多くの成果をあげている。

臨床検査部門では、昭和52年以来、先天性代謝異常、小児がん神経芽細胞腫、先天性副腎皮質過形成のマス・スクリーニングを実施し、新生児63名の患者を発見し、早期治療に結びつけるなど大きな成果をあげている。

細菌・ウイルス検査部門では、57年10月、飲料水の細菌汚染による大規模食中毒事件を踏まえて、本市の排水路等における食中毒菌などの調査を水質検査部門と合同で実施した。細菌検査として腸管系病原菌、コレラ菌、食品細菌を、ウイルス検査としてインフルエンザ、風しん抗体価などを実施した。

環境検査部門では、飲料水、プール水、公衆浴場水、繊維製品や家庭用洗剤などの家庭用品の検査、寒冷地における一般家庭の住居衛生に関する調査を実施している。

食品検査部門では、乳、乳製品、清涼飲料水、即席めん、容器包装の規格検査、食品中の添加物、重金属、残留農薬、抗菌剤検査のほか、厚生科学研究の「食品添加物1日摂取量調査」に参加し、有機酸の摂取量調査を実施した。

大気検査部門では、降下ばいじん、重油中のいおう分測定、雨水成分、悪臭などの検査、スパイクタイヤによるアスファルト粉じん関連の調査研究を行っている。

また、環境庁の委託業務として「非特定重大障害物質発生源等対策調査」に参加し、キシレン濃度を測定した。

水質検査部門では、河川水の定点観測、鉦山排水、工場排水の定期監視による水質検査のほか、排水路等環境調査の一環として、化学検査を実施している。

また、地下水汚染の実態把握を目的に、有機塩素系化合物の分析を行った。

(1) 微生物検査

微生物検査係において、細菌及びウイルスの検査は市民からの依頼と関係法令（伝染病予防法、食品衛生法、他）に基づく行政サイドからの依頼によってそれぞれ行う一方、これらに係る調査研究を実施している。

特に今年度からは、昭和57年10月に発生した飲料水汚染による食中毒事件の反省に立って、市内全域の排水路水等の環境調査を細菌と水質の両面から開始した。

一方、検査機器の整備についても、当衛研の長期的計画に基づいて実施しつつあるが、なかでも、懸案となっていた電子顕微鏡の新設に伴って、電顕試料作成技術習得のため、担当職員を国立予防衛生研究所に派遣した。

昭和58年度における微生物検査の実施状況は表1のとおり、検体数 5,999，延検査項目数 14,152であった。以下、主な検査項目について概況を報告する。

(1) 細菌検査

ア 腸管系病原菌検査

1,341 検体の便培養検査を行った（表1）。このうち、保健所クリニックに伴う検便390（29.1%）、疑似赤痢等の患者発生に伴う防疫検便655（48.8%）であった（表2）。

なお、病原菌の検出状況としては、保健所クリニック、防疫、その他から赤痢菌及びサルモネラ菌が検出された（表2）。このうち海外旅行者（ほとんどが東南アジア方面）からの検出率が昨年の20.2%に対し、13.4%とわずかに減少した。これらの検査と菌型の状況は表3、表4のとおりである。

イ コレラサーベイランス

このサーベイランスは、昭和53年11月から実施している。昭和58年度は、下水処理場の流入水と汚泥について、それぞれ48検体の検査を行った結果、コレラ菌（O-1）は検出されず、いわゆるNAGビブリオ菌が流入水で23検体（47.9%）、汚泥で18検体（37.5%）とそれぞれ検出された（表5）。

ウ 結核菌検査

管理検診、住民検診など286検体について喀痰検査を行い、塗沫陽性者5，培養陽性者8を検出した。

エ 食品細菌検査

820 検体の検査を行ったが、このうち、保健所からの依頼は昨年同様少なくなり、その他の行政機関（衛生管理部）からの依頼が多くなった。検査材料は、惣菜などを含む「その他の食品」が343検体、「魚介類加工品」が91検体、「牛乳加工乳」が82検体などであった（表6）。検査項目数では、大腸菌群765，生菌数613，黄色ブドウ球菌432などであった（表7）。

オ 細菌性食中毒検査

食中毒の疑いとして79件（458検体）の検査を行った（表8）。このうち、札幌市衛生管理部が食中毒と認定したものは9件であった。原因菌としては、ウェルシュ菌1件，黄色ブドウ球菌4件，サルモネラ菌2件，カンピロバクター1件，不明1件といった状況であった（表9）。

カ 排水路水等環境調査

昭和57年10月に、飲料水汚染による大規模食中毒事件（患者数 7,700 余人）が発生したが、これの反省に立って、衛生行政の一助とするため、市内全域における排水路水等に含まれる食中毒菌の調査を開始した。調査対象数25，検体数147，延検査項目1,911であった（表10）。

なお、詳細については本誌135ページを参照されたい。

(2) ウイルス検査

ア インフルエンザ流行調査

昭和58年11月24日に、市内の小学校でインフルエンザ様疾患の集団発生があり、その後、市内各区に広がり、12月中旬まで流行が続いた。その後、翌、昭和59年2月に再び同様の流行が発生し同月下旬まで続いた。以上の流行で分離されたウイルスは、インフルエンザウイルスA(H₁N₁)型であった。

イ 風しん抗体価検査

市内各保健所及び医療機関からの依頼により、妊婦を含む成人女性を中心に1,832検体について標記の検査を行った。

ウ トキソプラズマ抗体価検査

市内各保健所から依頼のあった167検体について、ラテックス凝集法により標記の検査を行った。

表 1 微生物学的検査実施数

昭和58年度

区 分		検 体 数	延 検 査 項 目 数
便	腸管系病原菌	1,341	2,682
	寄生虫卵	678	678
結	核 菌	286	572
食 中 毒	便・吐物	230	1,558
	食 品	159	1,404
	関 連 材 料	69	483
食 品 衛 生 細 菌		820	2,499
ウ イ ル ス	分 離	58	58
	血 清	116	116
	風 し ん	1,832	1,832
ト キ ソ プ ラ ズ マ		167	167
下 水	腸管系病原菌	96	192
排 水 路 水 等		147	1,911
総 数		5,999	14,152

表2 腸管系病原菌検査

昭和58年度

区 分	赤 痢 菌		サルモネラ菌		コ レ ラ 菌	
	検 体 数	陽 性 数	検 体 数	陽 性 数	検 体 数	陽 性 数
保健所クリニック	390	0	390	0	0	0
防 疫	655	2	655	12	464	0
そ の 他	296	0	296	0	0	0
総 数	1,341	2	1,341	12	464	0

表3 海外旅行者の腸管病原菌検出状況

昭和58年度

年 月	検 査 者 数	陽 性 者 数	菌 種 名							検 出 菌 種 数	混 合 感 染 菌 種
			赤痢菌	サルモネラ菌	病 原 大 腸 菌	コレラ菌	腸炎ビブリオ	フレンシモナス菌	エロモナス菌		
58 4	14	3	2	1	1					4	赤痢+サルモネラ
5	7	1		1						1	
6	6	1			1					1	
7	24	3		2	1					3	
8	2	0									
9	14	4			3		1			4	
10	11	1			1					1	
11	4	0									
12	5	0									
59 1	60	7			4		2		1	7	
2	87	10		4	5			1		10	
3	12	3			2		2			4	
総 数	246	33	2	8	18	0	5	1	1	35	
検出率 (%)		13.4	0.8	3.3	7.3		2.0	0.4	0.4	14.2	

主要病原菌の血清型

(デнка生研診断用血清)

赤痢菌(2) : B-16(1), D-1(1)

サルモネラ菌(8) : B(4), C₂(2), D₁(1), E₄(1)

病原大腸菌(18) : O-6(3), O-27(1), O-55(2), O-126(3), O-128(5), O-148(2), A-D(2)

腸炎ビブリオ(5) : O1 : K28(1), O3 : K7(2), O4 : K63(1), O10 : K66(1)

表 4 ヒト由来のサルモネラ菌型

昭和58年度

血清型 ¹⁾	菌型	海外 旅行者	一般	医療機関 ²⁾	食中毒	計
B : b:1, 2 d+	S. paratyphi B	1	2		35	3
: d:1, 2	S. stanley	1				1
: eh:1, 2	S. saintpaul	1				1
: G(f, g)	S. derby	1				1
: i:1, 2	S. typhimurium		2	26	35(2) ³⁾	63
C ₁ : eh:en, z ₁₅	S. braenderup			1		1
: G(m, t)	S. oranienberg			2		2
: r:1, 5	S. infantis			1		1
C ₂ : d:1, 2	S. muenchen			1		1
: eh:1, 2	S. newport	2				2
: Lv:1, 2	S. litchfield			2		2
D ₁ : d-vi+	S. typhi			1		1
: G(g, m)	S. enteritidis			2		2
: Lz ₂₈ :1, 5	S. javiana	1				1
E ₁ : Lv:1, 6	S. london			1		1
E ₄ : G(g, s, t)	S. senftenberg	1				1
: Y:Lw	S. krefeld			1		1
R : b:en, x	S. johannesberg			1		1
B : HUK	S.			1		1
総	数	8	4	40	35(2)	87

1) デンカ生研診断用血清

2) 市内医療機関より菌株送付のあったもの

3) 食中毒発生件数2, (陽性数5 + 30 = 35)

表5 下水処理場流入水のコレラ菌サーベイランス

昭和58年度

採水場所	検体別		流 水		汚 泥 水		計	
	検体数	陽 性	検体数	陽 性	検体数	陽性数	検体数	陽性数
新川下水処理場	12	0 (3)※	12	0 (0)	24	0 (3)	24	0 (3)
創成川下水処理場	12	0 (9)	12	0 (7)	24	0 (16)	24	0 (16)
豊平川下水処理場	12	0 (3)	12	0 (3)	24	0 (6)	24	0 (6)
厚別川下水処理場	12	0 (8)	12	0 (8)	24	0 (16)	24	0 (16)
総 数	48	0 (23)	48	0 (18)	96	0 (41)	96	0 (41)

※ ()内は、NAGビブリオ菌

表6 食品細菌検査依頼別検体数

昭和58年度

検体種別	依頼先	総 数	行 政 機 関		一 般
			保 健 所	衛 生 管 理 部	
牛 乳 , 加 工 乳		82	0	20	62
魚 介 類		59	0	43	16
冷 凍 食 品		26	0	0	26
魚 介 類 加 工 品		91	1	32	58
肉 卵 類 加 工 品		66	0	35	31
乳 製 品 , 加 工 品		40	1	32	7
アイスクリーム, 氷菓		15	0	0	15
穀 類 及 び 加 工 品		12	0	10	2
野菜, 果物及び加工品		5	0	0	5
菓 子 類		35	0	10	25
清 涼 飲 料 水		45	20	20	5
氷 雪		1	0	0	1
そ の 他		343	102	40	201
総 数		820	124	242	454

表 7 食品細菌検査項目内訳

昭和58年度

検査項目 検体種別	一般細菌		食中毒起因菌						その他	総数
	生菌数	大腸菌群	黄色ブドウ球菌	腸炎ビブリオ菌	ウェルシュ菌	サルモネラ菌	赤痢菌	セレウス菌		
牛乳, 加工乳	82	82	0	0	0	0	0	0	3	167
魚介類	58	58	18	52	13	13	9	14	45	280
冷凍食品	18	9	18	0	18	0	0	0	9	72
魚介類加工品	60	96	59	2	2	2	0	2	2	225
肉卵類加工品	22	65	13	0	0	4	0	0	2	106
乳製品, 加工品	10	39	0	0	0	0	0	0	18	67
アイスクリーム, 氷菓	9	15	0	0	0	0	0	0	0	24
穀類及び加工品	12	12	2	0	10	0	0	12	0	48
野菜, 果物及び加工品	5	5	3	0	0	1	0	0	0	14
菓子類	39	38	42	0	0	0	0	10	4	133
清涼飲料水	1	45	0	0	0	0	0	0	0	46
氷雪	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
その他	296	300	277	7	106	152	8	144	25	1,315
総数	613	765	432	61	149	172	17	182	108	2,499

表 8 食中毒の疑いによる検査実施状況

昭和58年度

月	検査件数	検体				検体総合計
		便	吐物	食品	関連材料	
58. 4	7	10	0	9	1	20
5	2	6	0	3	0	9
6	5	5	0	6	0	11
7	8	26	0	9	7	42
8	19	95	7	70	45	217
9	6	9	0	12	0	21
10	2	17	2	18	0	37
11	4	0	1	3	0	4
12	6	19	1	8	2	30
59. 1	6	10	0	10	7	27
2	8	9	0	8	0	17
3	6	12	1	3	7	23
総数	79	218	12	159	69	458

表 9 細菌性食中毒発生状況

昭和58年度

発生 番号	発生月日	摂食 者数	患者数	原因食品	便		吐 物		食 品		関連材料		検 体 総 合 計
					検体数	陽 性	検体数	陽 性	検体数	陽 性	検体数	陽 性	
1	58. 4 28	3	3	炒め物	3	3							ウエルシュ菌
2	6 27	250	159	不 明	12	3							黄色ブドウ球菌
3	7 7	210	111	弁 当	13	5			5	0	7	0	サルモネラ テイフィミリウム
4	7 31	654	47	仕出し	17	4	5	2	16	11	15	2	黄色ブドウ球菌
5	8 9	12	11	弁 当	15	7	1	1	17	12	16	3	黄色ブドウ球菌 (コアグラゼⅦ)
6	8 10	259	33	不 明	42	30			4	0			サルモネラ テイフィミリウム
7	8 15	18	5	おにぎり	1	1	1	1			3	3	黄色ブドウ球菌 (コアグラゼⅥ)
8	12 4	34	9	不 明	12	0			1	0	2	0	不 明
9	59. 2. 13	不明	1	不 明	1	1			3	0			カンピロバクター ジェジュニ

表 10 排水路等環境調査

昭和58年度

種 目	対 象 数	検 体 数	延 検 査 項 目 数
排 水 路	15	87	1,131
河 川	10	60	780
総 数	25	147	1,911

(2) 臨床検査

臨床検査係では、従来から行っている一般臨床検査に加え、行政方針として昭和52年度から全国に先がけて、新生児の先天性代謝異常等のマス・スクリーニングを実施し、58年度までに143,068人の検査を行い先天性代謝異常症24人、先天性甲状腺機能低下症20人、先天性甲状腺ホルモン結合たん白欠損症10人、先天性副腎皮質過形成2人、計56人を発見したほか、56年度から乳児を対象に神経芽細胞腫マス・スクリーニングを実施し、58年度までに41,437人の検査を行い7人を、合計63人の患児を発見し早期治療に結びつけるなど大きな成果をあげている。

〔業務報告〕

58年度の主な業務内容は下記のとおりである。

(1) 一般臨床検査

一般臨床検査は、行政及び市民からの依頼によるもので、検査件数は5,036件である。内訳は、性病予防法に基づく結婚・妊娠時や健康診断受診時の梅毒検査並びにHB抗原抗体検査がほとんどである(表1, 2)。

(2) 先天性代謝異常マス・スクリーニング

市内で出生した全新生児を対象に血液ろ紙を用いて検査を行った。検査件数は21,018人であり、届出出生数からみた受検率は102%であった。検査内容は、フェニールケトン尿症、ガラクトース血症、ヒスチジン血症、ホモシスチン尿症、メイプルシロップ尿症の5種目で、北大、札医大のコンサルタントによる精密検査の結果、1例がフェニールケトン尿症、他の1例がヒスチジン血症と診断された。58年度までの総検査件数は143,068件であり、その発見頻度は $\frac{1}{6,502}$ である(表3)。

(3) 先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)マス・スクリーニング

53年6月から、市内で出生した全新生児を対象に血液ろ紙を用いて放射性免疫測定法により検査を行っている。検査件数は21,018件であり、精密検査の結果3例の患児を発見した。

58年度までの総件数は123,809件で、発見頻度は $\frac{1}{6,190}$ である(表3)。

(4) 先天性甲状腺ホルモン結合たん白欠損症(TBG欠損症)マス・スクリーニング

55年5月から、クレチン症と同様に検査を行っている。検査件数は21,018件であるが、患児は発見されなかった。58年度までの総件数は81,799件で発見頻度は $\frac{1}{8,180}$ である(表3)。

(5) 先天性副腎皮質過形成マス・スクリーニング

57年5月から全新生児を対象に血液ろ紙を用いて酵素免疫測定法により検査を行っている。検査件数は21,018件であり、精密検査の結果1例の患児を発見した。58年度までの総数は40,534件で、その発見頻度は $\frac{1}{20,267}$ である(表3)。

(6) 神経芽細胞腫マス・スクリーニング

56年度から市内に居住する6~12カ月の乳児を対象に、尿ろ紙を用いて高速液体クロマトグラフィ法などによって検査を行っている。検査件数は15,796件であり、精密検査の結果、3例の患児を発見した。対象乳児に対する受検率は76.1%である。58年度までの総数は41,437件で、その発見頻度は $\frac{1}{5,920}$ である(表4)。

表1 一般臨床検査状況

昭和58年度

区 分		件 数
血 清	ガラ ス 板 法	2,163
	梅毒血球凝集反応 (TPHA)	2,163
	精密検査 (凝集法, 緒方法)	16
	HBs 抗 原 検 査	430
	HBs 抗 体 検 査	192
	HBe 抗 原 抗 体 検 査	34
血 液	血 清 一 般 検 査	72
総 数		5,036

表2 HBs抗原抗体検査陽性率

昭和58年度

区 分	検体数	陽 性	陽 性 率
HBs 抗 原 検 査	430	29	6.7 %
HBs 抗 体 検 査	192	25	13.0

表3 先天性代謝異常等検査状況

昭和58年度

区 分	件 数	再検査数	精密検査	患 者 数	
血 液 ろ 紙	フェニールケトン尿症	21,018	7	2	1
	ガラクトース血症	21,018	51	1	0
	ヒスチジン血症	21,018	6	1	1
	ホモシスチン尿症	21,018	26	8	0
	メイプルシロップ尿症	21,018	11	2	0
	クレチン症	21,018	21	21	3
	T B G 欠 損 症	21,018	10	0	0
	先天性副腎皮質過形成	21,018	27	10	1
総 数	168,144	159	45	6	

表4 神経芽細胞腫スクリーニング検査状況

昭和58年度

区 分	件 数	再検査数	精密検査	患 者 数
神経芽細胞腫検査 (尿ろ紙)	15,796	361	17	3

(3) 環境検査

飲料水、家庭用品等の安全性の確保を図るため、水道法に基づく飲料水検査のほか、遊泳用プール水、公衆浴場水等の一般環境検査及び有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律に基づく家庭用品検査などの試験検査並びに調査研究を行っている。

昭和56年度から継続している一般家庭の住居衛生調査の分野を拡充しており、今後は水、衣、住の広い領域にわたる市民の生活環境向上に努めていきたい。

〔業務報告〕

昭和58年度における環境検査の実施状況は表1のとおり、検体総数2,351、総項目数23,027であった。主な検査内容は次のとおりである。

(1) 飲料水検査

行政、営業者及び一般市民からの依頼により、専用水道、井戸水等の飲料水検査を行っている。依頼検体数は、上水道の普及が年々向上している反面、依然として地下水を使用している一般家庭や営業者がいるため、ここ数年横ばいに推移している。

昭和58年度の水質基準適否状況についてみると、依頼の大部分を占める一般検査の検体数と適合率は1,709検体の72.9%であった(表2)。

これらの検査結果から、水質基準に適合しない検体の項目別内訳は色度、鉄、大腸菌群、濁度の順である(表3)。この傾向は一般市民から寄せられた苦情内容にも表われている(表4)。

このほか、本年度は衛生管理部の行政指導を受けた専用水道事業者からの依頼により、総トリハロメタンの検査を実施したが、結果はすべて不検出であった。

(2) 一般環境検査

営業者からの依頼により、プール水及び公衆浴場水の合計330検体を検査したが、このうちの大半を占めるプール水検査294検体について、札幌市プール指導要領に定める水質基準でみると、残留塩素を除いた不適率は5.8%(19検体)であり、不適の内訳は過マンガン酸カリウム消費量、pH値の順であった。

(3) 家庭用品検査

衛生管理部からの行政依頼により、繊維製品や家庭用洗剤など家庭用品の試買品154検体について、防虫加工剤、防炎加工剤及び有機溶媒等の有害物質延267項目の検査を実施した(表5)。

本年度は、家庭用品規制法の改正により、新たに規制項目に加えられたトリクロロエチレン及びテトラクロロエチレン等(58年10月1日施行)についても検査を行ったが、結果はいずれの項目もすべて基準に適合した。

表 1 環境検査実施数

昭和58年度

検 査 名		検 体 数	延検査項目数
飲 料 水 検 査	一 般 検 査	1,709	17,976
	全 項 目 検 査	53	1,730
	特 殊 項 目 検 査	59	269
	計	1,821	19,975
一 般 環 境 検 査	プ ー ル 水 検 査	294	1,763
	浴 場 水 検 査	36	97
	一 般 室 内 環 境	46	925
	計	376	2,785
家 庭 用 品 検 査		154	267
総 数		2,351	23,027

表 2 水質基準適否状況

昭和 58 年度

検査名	適否		適	否	不適の内訳			判定保留	合計
	検体区分				化学・細菌	化学のみ	細菌のみ		
一般検査	水道水	原水	58 (61.7%)	36 (38.3%)	1	18	17	0	94
		浄水	317 (85.4%)	54 (14.6%)	0	51	3	0	371
		小計	375 (80.6%)	90 (19.4%)	1	69	20	0	465
	井戸水	822 (71.3%)	329 (28.5%)	31	238	60	2	1,153	
	その他	32 (61.5%)	20 (38.5%)	8	4	8	0	52	
	利用水	16 (41.0%)	23 (59.0%)	3	17	3	0	39	
	計	1,245 (72.9%)	462 (27.0%)	43	328	91	2	1,709	
全項目検査	水道水	原水	8 (61.5%)	5 (38.5%)	1	3	1	0	13
		浄水	18 (94.7%)	1 (5.3%)	0	0	1	0	19
		小計	26 (81.3%)	6 (18.7%)	1	3	2	0	32
	井戸水	5 (55.4%)	4 (44.4%)	0	4	0	0	9	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	
	利用水	0 (0%)	12 (100%)	3	9	0	0	12	
	計	31 (58.5%)	22 (41.5%)	4	16	2	0	53	
総数		1,276 (72.4%)	484 (27.5%)	47	344	93	2	1,762	

表3 水質基準不適検体の項目別内訳

昭和58年度

検査名	不適項目		色 度	濁 度	pH 値	臭 気	亜硝酸 酸性窒素 及び	硝酸 酸性窒素	塩素イ オン	過カリ ウム消 費量	マン ガン 酸	鉄	一 般 細 菌	大 腸 菌 群	そ の 他	総 数
	検体区分															
一般 検査	水道水	原水	14	8	1	2	0	0	3	17	1	18	0	64		
		浄水	40	9	0	4	0	0	2	23	0	3	0	81		
	井戸水	178	76	7	41	18	6	25	156	10	85	1) ¹⁾	603			
	その他	12	9	0	1	0	0	5	8	1	16	0	52			
	利用水	17	12	1	2	0	0	4	14	2	6	0	58			
	計	261	114	9	50	18	6	39	218	14	128	1	858			
全 項目 検査	水道水	原水	1	1	0	1	0	0	0	1	1	2	2) ²⁾	8		
		浄水	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1		
	井戸水	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	5			
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	利用水	12	12	0	10	0	1	11	12	0	0	3) ³⁾	83			
	計	15	13	0	12	0	1	11	15	2	2	26	97			
総数			276	127	9	62	18	7	50	233	16	130	27	955		

1) 蒸発残留物 1

2) 亜鉛 1

3) マンガン12, 蒸発残留物 8, 硬度 4, フェノール類 1

表 4 飲料水検査の苦情内訳

昭和 58 年度

苦 情 内 容		例 数	
生 水 の 状 態	濁り	褐色に濁る 12	
	臭 気	異臭	9
		下水臭	3
		金気臭	1
		油様臭	1
	浮沈 遊殿 物物	砂礫が混じる	5
		油膜が浮く	4
		水あかが混じる	3
		鉄さび状沈殿物	2
	その他	泡立つ	2
洗濯物が変色する		2	
沸 か し た 水 の 状 態	濁り	褐色に濁る 4	
	臭 気	異臭	1
		油様臭	1
	浮沈 遊殿 物物	鉄さび状沈殿物	7
		油膜が浮く	1
その他	青色に変色する 1		

表5 家庭用品検査状況

昭和58年度

検体区分	項目	検体数		ホルムアルデヒド	有機水銀化合物	D T T B	D T T B	ビス(2・3ジプロムプロピル)ホスフェイト化合物	塩化ビニル	メタノール	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	塩化水素・硫酸	水酸化ナトリウム・水酸化カリウム	容器試験	合計	不適数
		生後24月以内のもの	左記以外														
織 維 製 品	おしめ	1	1													1	0
	おしめカバー	4	5													5	0
	よだれ掛け	2	2													2	0
	下着	77	7	78	5											90	0
	中衣	2				2	2									4	0
	外衣	5	3			2	2									7	0
	くつ下	1	1													1	0
	帽子	2	3													3	0
	寝衣	10	4	6				2								12	0
	寝具	3	3					1								4	0
	床敷物	2				1	1	1								3	0
カーテン	1						1								1	0	
家庭用毛糸	3				3	3									6	0	
計	113	29	84	5	8	8	5								139	0	
家庭用化学製品	家庭用ワックス	1			1											1	0
	家庭用品エアゾル製品	21						7	4	10	10					31	0
	住宅用洗剤	6											14	1	16	31	0
	家庭用洗剤	13											41	24	65	0	
	計	41			1				7	4	10	10	14	42	40	128	0
総数	154	29	84	6	8	8	5	7	4	10	10	14	42	40	267	0	

(4) 食品検査

市民の食生活の安全性を確保するため、市民及び行政の依頼をうけ、食に関するあらゆる理化学検査を行っている。

すなわち、食品衛生法に基づいて、乳、乳製品、清涼飲料水、即席めん等の食品及び容器包装等の規格検査を行うほか、食品中の添加物、重金属、残留農薬及び抗菌剤等の衛生化学的な試験検査とそれらに関する調査研究を行っている。

また、化学的食中毒の原因物質の検査及び食品の栄養分析も実施している。

今後は食品の衛生面に限らず栄養面についても検査体制を充実させ、分析、解析をとおして、ますます多様化する市民の食生活の実態は握を目ざした調査研究にも取り組んでいきたい。

〔業務報告〕

昭和58年度の検査実績は総検体数938検体、延検査項目数2,780件であった(表1, 2)。

そのうち衛生管理部及び保健所からの取去検体数は507検体、検査項目に対する割合はそれぞれ54.0%、55.3%であった。

その他の行政依頼(主として教育委員会)は117検体(12.4%)、331件(11.9%)であり、一般からの依頼(主として食品製造販売者)は314検体(33.5%)、911件(32.8%)であった。

(1) 乳及び乳製品規格検査

取去、その他の行政依頼、一般依頼とも同程度の検査数であったが、すべて規格に適であった。

(2) その他食品の規格検査

生あん及び即席めんの規格検査については違反はなかったが、清涼飲料水に1検体の規格違反と油菓子の過酸化物質に1件指導基準違反がみられた。

(3) 食品添加物検査

保存料のソルビン酸の検査が最も多く、延検査項目数810件中198件であり、つぎにプロピレングリコール128件、ブチルヒドロキシアニソール96件、その他合せて15項目ほどの検査を行ったうち、違反検査はプロピレングリコールの使用基準違反4件と基準外使用の亜硫酸1件であった(表3)。

(4) 残留農薬及びPCB検査

残留農薬検査は野菜、果実等が27検体416件中26検体が取去検査である。PCB検査は砂糖等が9検体であり、このうち8検体が依頼検査であった。

残留農薬は一部検出されたが、すべて残留基準値以下であり(表4)、PCBは全く検出されなかった。

(5) 栄養分析

783件行ったが、ビタミン類の検査の依頼が増加した。

(6) 厚生科学研究「食品添加物1日総摂取量調査に関する研究」

厚生省食品化学課作製の国民1人当り1日喫食量表に従って市販加工食品180種を購入し、これを8群分類後秤取、摩砕して試料とし、全国10地区分担機関で送付し合い、担当項目を分析した。当所は10地区各8群(80検体)について、クエン酸、コハク酸、酒石酸、フマー

ル酸、リンゴ酸の5項目の摂取量調査を担当した。

(7) その他

健康志向食品30検体について、異物検査、重金属検査を行ったうち、ダニ検出のもの、ヒ素の含有量の高いものがそれぞれ1検体ずつみられた。

表 1 食品化学検査検体数

昭和 58 年度

種 類	依頼別	総 数	行 政 機 関		一 般
			保 健 所 等	そ の 他	
牛	乳	68	21	25	22
加 工	乳	8	4	—	4
魚	介 類	7	7	—	—
魚 介 類	加 工 品	179	81	4	94
肉卵類及びその加工品		58	37	—	21
乳 製 品		39	27	—	12
乳 類 加 工 品		12	1	—	11
アイスクリーム類・氷菓		—	—	—	—
穀 類 及 び 其 の 加 工 品		209	141	64	4
野菜・果物及びその加工品		216	109	—	107
菓 子 類		51	40	—	11
清 涼 飲 料 水		57	42	—	15
氷 雪		—	—	—	—
か ん 詰 ・ び ん 詰		1	—	—	1
そ の 他 の 食 品		2	—	—	2
添 加 物		—	—	—	—
器 具 及 び 容 器 包 装		34	—	24	10
か ん す い		—	—	—	—
総 数		941	510	117	314

表 2 食品化学項目別検査件数

昭和 58 年度

区 分	検 査 項 目	総 数	行政依頼	そ の 他 行政依頼	一般依頼
乳及び乳製品 (規格)	比重	60	21	21	18
	酸度	62	23	21	18
	乳脂肪分	70	28	25	17
	乳固形分	14	8	0	6
	無脂乳固形分	105	37	25	43
	計	311	117	92	102
清涼飲料水 (規格)	鉛, 銅, ヒ素等の限度試験	176	160	—	16
食品添加物	ソルビン酸	198	115	—	83
	安息香酸	5	3	—	2
	パラオキシ安息香酸	18	—	—	18
	合成着色料	77	43	—	34
	天然着色料	20	20	—	—
	ニコチン酸	—	—	—	—
	縮合リニン酸	43	40	—	3
	サッカリンナトリウム	25	—	—	25
	亜硝酸	56	37	—	19
	亜硫酸	77	23	—	54
	硝酸	10	10	—	—
	ブチルヒドロキシアニソール(BHA)	96	85	—	11
	ジブチルヒドロキシトルエン(BHT)	14	5	—	9
	臭素酸カリウム	28	28	—	—
	プロピレングリコール	128	127	—	1
その他	15	10	—	5	
	計	810	546	—	264
金 属	ヒ素, 鉛, スズ, 銅, カドミウム	150	92	—	58
農薬・PCB	塩素系	270	259	—	11
	リン系	119	119	—	—
	カルバリル	8	8	—	—
	金属 (As, Pb)	16	16	—	—
	有機スズ	2	2	—	—
	PCB	9	1	—	8
	その他	8	—	—	8
	計	432	405	—	27
合成抗菌剤	クロピドニル	1	—	—	1
	アンプロリウム	—	—	—	—
	ゾーリ	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—
	計	1	—	—	1